

脱炭素化についての事業者アンケート 調査結果

上尾市環境政策課

調 査 概 要

【調査目的】

上尾市では、2050年までに市内の温室効果ガス排出量を実質ゼロとするゼロカーボンシティの実現を目指しており、市民・事業者・行政が一体となって脱炭素に向けた取組を行っていけるよう脱炭素シナリオや将来ビジョンの策定を予定している。市の今後の取組に反映させるため、アンケート調査を実施する。

【対象者】

市内事業者・事務所・農業従事者

【実施期間】

令和4年11月15日から令和4年12月5日まで

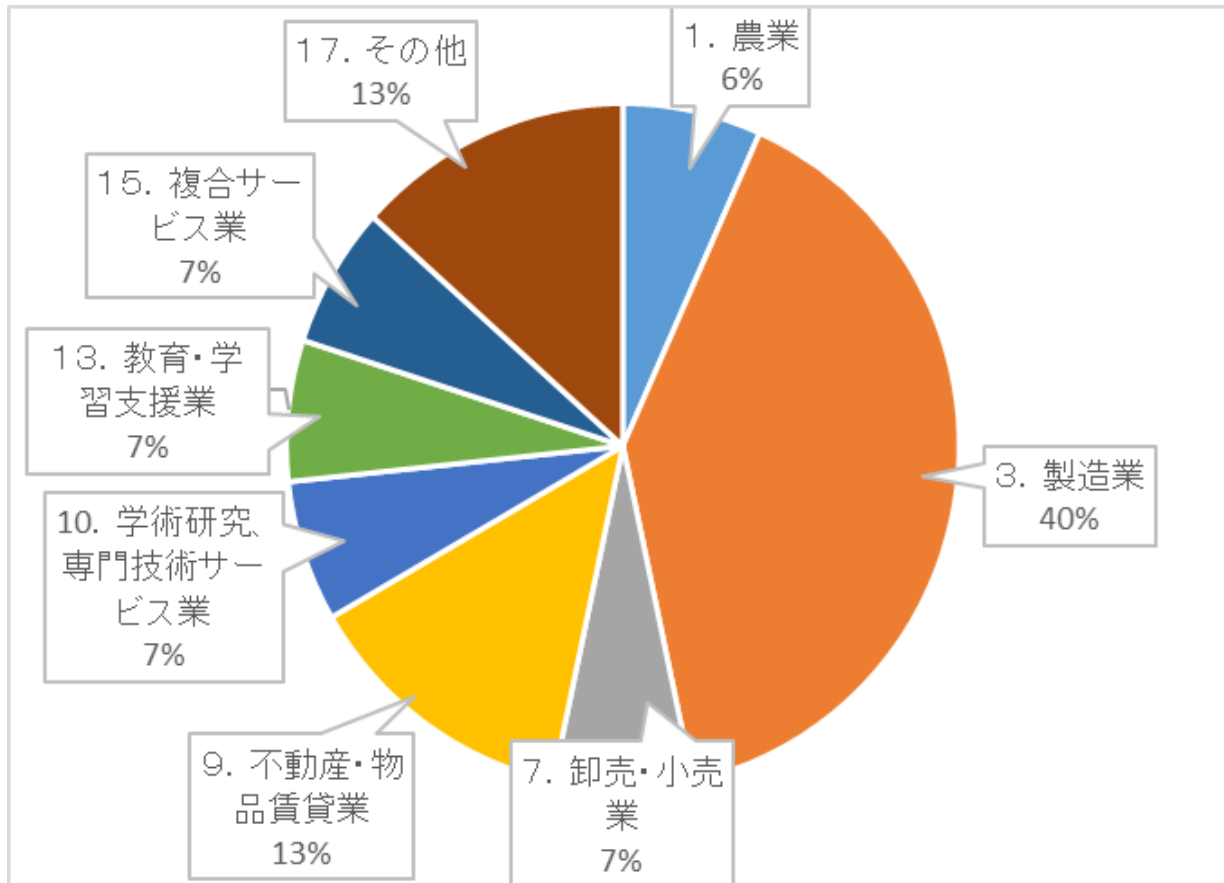
【回答方法】

環境政策課か各支所、出張所、公民館へ直接、または電子申請（環境政策課ホームページ内）、郵送、メール、FAX

【回答数】

15件

Q1 貴事業所の業種を教えてください。 ※業種が複数にまたがる場合は、主となる業種を1つ選んでご回答ください。



業種	実数	構成比
1. 農業	1	6%
3. 製造業	6	40%
7. 卸売・小売業	1	7%
9. 不動産・物品賃貸業	2	13%
10. 学術研究、専門技術サービス業	1	7%
13. 教育・学習支援業	1	7%
15. 複合サービス業	1	7%
17. その他	2	13%
合計	15	100%

Q2 貴事業所の従業員数を教えてください。

1. 5人未満	6
3. 10～29人	4
4. 30～49人	1
5. 50～99人	2
6. 100～199人	1
7. 200～299人	1
合計	15

Q3 貴事業所の床面積（テナントとして賃借している場合は、賃借スペースの延床面積）

1. ～50㎡未満	4
2. 50㎡～100㎡未満	1
3. 100㎡～500㎡未満	1
4. 500㎡～1000㎡未満	2
5. 1000㎡～3000㎡未満	4
6. 3000㎡以上	3
合計	15

Q4 上尾市が「上尾市ゼロカーボンシティ宣言」を表明していることを知っていますか。

1. 知っている	5
2. 知らない	6
3. 聞いたことはある（内容はわからない）	4
合計	15

Q5 自社の温室効果ガス排出量について把握・公表していますか。

2. 把握しているが、公表していない	5
3. 把握していない	10
合計	15

Q6 （Q5で把握していないと答えた方）自社の温室効果ガス排出量について把握していない理由は何ですか。

1. エネルギー使用量を把握していない	4
2. 知識を有する従業員がいない	2
3. 必要性がない	4
4. 時間がない	1
合計	11

※複数回答が1者いたため、合計が11となっている。

Q7 温暖化対策について行政に期待することはありますか（複数回答可）

1. 補助金	11
2. 情報提供	9
3. 義務、規制の強化	1
4. 同業他社の事例紹介	3
5. 認証制度	5
6. その他	1
7. 未回答	1
合計	31

※その他（脱カーボン資材について民間企業への普及）

Q8 地球温暖化対策に係る国（環境省や経済産業省、国土交通省等）や埼玉県等の補助金を利用したことはありますか。

1. ある	4
2. ない	11
合計	15

Q9 (Q8であると答えた方) 利用した補助金は何ですか。

事業再構築補助金
施設園芸サポート技術導入補助金
埼玉県民間事業者CO2配収t削減設備導入補助金 (R4)
エネルギー使用合理化事業者支援補助金 (高効率ボイラー) (H24)

Q10 (Q8でないと答えた方) 利用していない理由は何ですか。(複数回答可)

1. どのような補助金があるのかわからない	7
2. 補助金の申請条件が厳しい	2
3. 補助金の金額が少ない	1
4. 補助金の内容と取組内容が合致しない	4
5. その他	1
7. 未回答	3
合計	18

※その他 (申請期限が短い)

Q11 脱炭素化に資する取組について取引先から求められたことはありますか。

2. 把握しているが、公表していない	5
3. 把握していない	10
合計	15

Q12 今後市が脱炭素化に向けた具体的施策の共同実施等について検討する会議を開催した場合、参加の希望はありますか。

1. 参加したい	2
2. 都合があれば参加したい	7
3. 参加は希望しない	6
合計	15

Q13 地球温暖化対策の取組状況と今後の意向について

	実施している	検討中	実施予定	実施予定なし	対象外	未回答	合計
①太陽光発電設備	2	0	0	11	2	0	15
②蓄電池の導入	0	1	2	10	1	1	15
③太陽熱利用システム	0	0	0	12	2	1	15
④小水力（マイクロ含む）発電	0	0	0	12	2	1	15
⑤LED照明の導入	12	0	2	0	0	1	15
⑥事務所のZEB化	1	1	0	9	2	2	15
⑦次世代自動車の導入	2	2	2	7	0	2	15
⑧省エネ機器の導入	4	4	0	5	0	2	15
⑨高効率給湯器	1	2	0	10	1	1	15
⑩EMS（エネルギーマネジメントシステム）	1	1	0	11	1	1	15
⑪再生可能エネルギー電力の購入・導入	1	6	0	7	0	1	15
⑫エコアクション21取得	2	3	0	8	1	1	15
⑬Jクレジットや証書等の調達	0	4	0	9	0	2	15
⑭建物の高断熱化	3	1	1	9	0	1	15
⑮ESG投資	0	3	0	9	1	2	15
⑯ESCO事業	0	2	0	10	1	2	15
⑰省エネルギー診断	2	2	0	9	0	2	15
⑱ごみ減量	9	1	0	3	0	2	15
⑲エコドライブの実施	6	1	1	6	0	1	15

Q14 製造業の方は回答してください。

	実施している	検討中	実施予定	実施予定なし	対象外	合計
①高効率ボイラーの導入	1	0	0	3	2	6
②IoT技術やAI技術の活用	2	1	1	2	0	6
③環境に配慮した製品の開発・使用	5	0	0	1	0	6
④高効率空調機器の導入	4	0	0	2	0	6
⑤インバータの導入	3	1	0	2	0	6
⑥温室効果ガス排出の少ない燃料への変更	1	1	0	4	0	6
⑦放送資材の減量	3	1	0	2	0	6
⑧高効率産業用モーターの導入	1	0	0	5	0	6
⑨工場・設備などの集約化	2	1	0	2	1	6
6⑩原材料や部品の共有化	1	3	0	2	0	6
⑪高効率ヒートポンプの導入	0	0	0	6	0	6
⑫未利用エネルギーの利用	0	1	0	5	0	6

Q15 Q16 : 該当なし

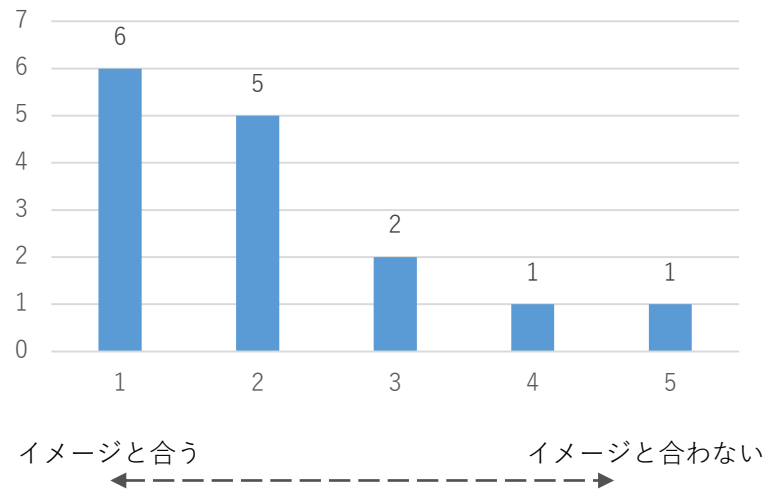
Q17 2050年ゼロカーボンシティを実現できた上尾市では、どのような暮らしが広がっていると思いますか。

生活に関係する建物や乗り物、設備、自然環境や生活様式（ライフスタイル）など将来の上尾市のまちのイメージをお聞きします。

- 【回答】 ①イメージと合う ②イメージに近い ③どちらでもない
 ④イメージと少し違う ⑤イメージと合わない

Q17-1 人材育成・環境教育

学校等で地球温暖化等の環境問題についての教育が行われ、市民それぞれに地球温暖化対策、気候変動対策等に関する知識が定着している。



【自由記入欄】

5：イメージと合わないに回答

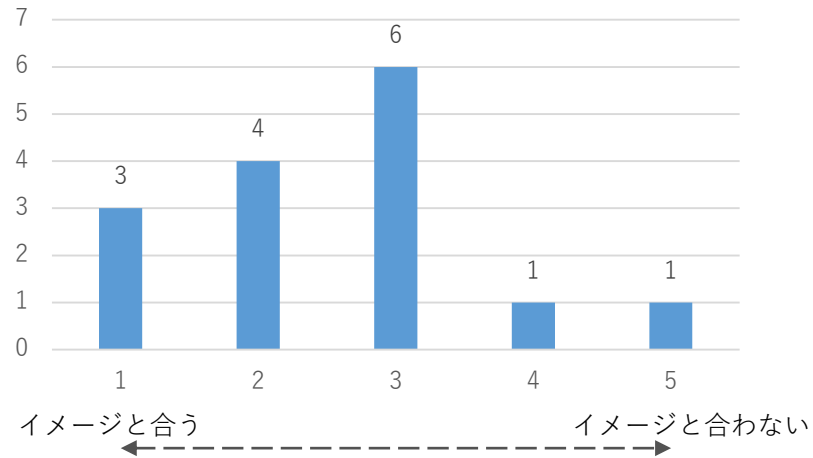
上尾市のゼロカーボン構想はかなり遅れていると考えています。

①市民への理解の浸透、②行政としてのサポート、③企業側への推進どれをとってもほぼ行われていません。

急に変わっていくものではないとは思いますが、未だに企業としてのゼロカーボン構想をお話ししてもまったく興味がない方が多すぎます。宣言をした後は時間に任せるではなくトップがしっかりと牽引し変えていく必要があります。市長にはその位していただきたいです。

Q17-2 省エネルギー住宅

住宅の断熱性能の向上と日射遮蔽性能の向上により「冬は最小限の暖房エネルギーで暖かい」「夏は最小限の冷房エネルギーで涼しい」省エネルギー住宅が普及し健康で快適な暮らしができています。



【自由記入欄】

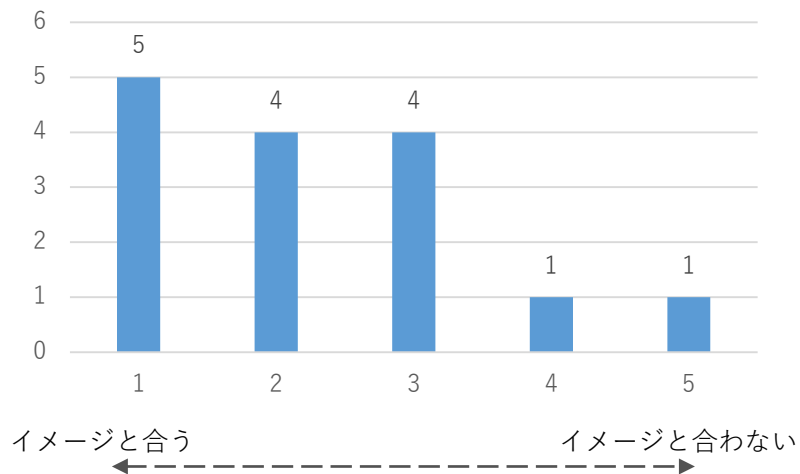
4：イメージと少し違うに回答

住宅の建設については知識が乏しいためあくまでイメージで返答させていただきました。

上尾の場合新しく建設される住宅もそうですが、既存の住宅や団地などをどう生かしていくかが最大の課題となると考えています。

Q17-3 地域内でエネルギー循環

地域の再生可能エネルギーによって作られたエネルギーは市内の事業者や家庭で使用する仕組みができています。



【自由記入欄】

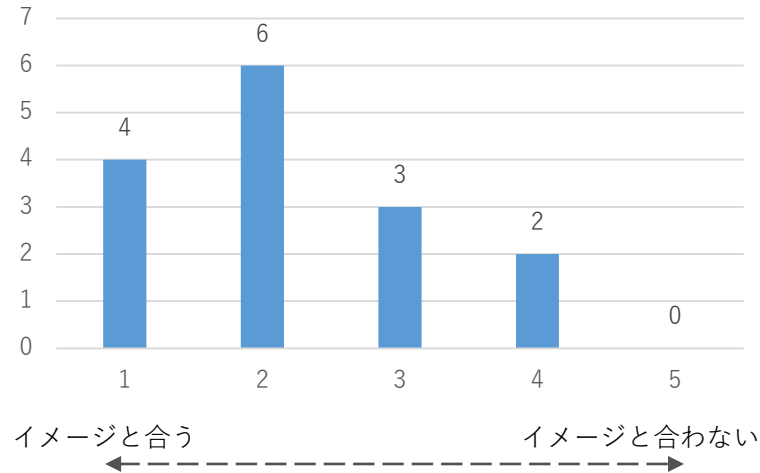
5：イメージと合わないに回答

市として焼却炉を持つ上尾市としては発生する熱量は膨大です。

今後、新しく建設されていくのであればそのような熱を農業・工業・福祉などに十分に利用されることもご検討いただきたいです。

Q17-4 災害に強いまち レジリエンス向上

市内の避難所には、太陽光発電システムや蓄電池が導入されており、有事の際の避難生活時に活用することができるようになってきている。各家庭の多くにも太陽光発電システムと蓄電池が設置されており、災害時の停電にも強いまちとなっている。



【自由記入欄】

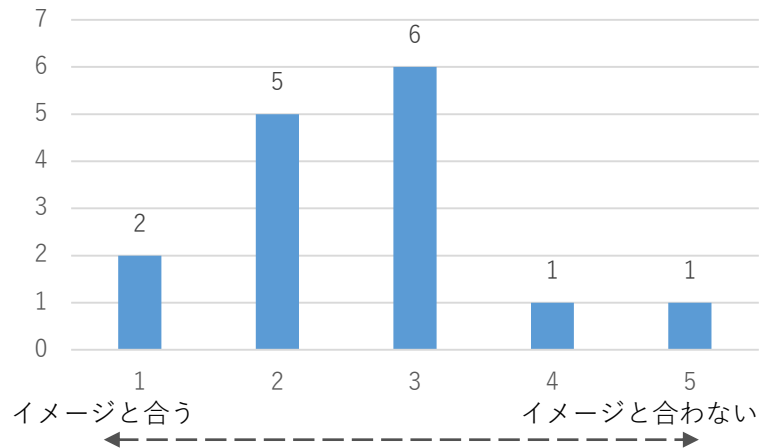
4：イメージと少し違うに回答

町の構造的が根本的な問題であると考えています。上尾の場合ベッドタウンとして栄えてきた町の為、昼間人口と夜間人口の差が大きく開いており、夜間の必要電力が大きい都市となっています。

夜間に発電が困難な太陽光システムでは現在の課題は解決することはできないため、簡易水力やバイオマスなど市内で賄える発電を検討していく必要があります。

Q17-5 市内企業の活性化

市内の避難所には、太陽光発電システムや蓄電池が導入されており、有事の際の避難生活時に活用することができるようになってきている。各家庭の多くにも太陽光発電システムと蓄電池が設置されており、災害時の停電にも強いまちとなっている。



【自由記入欄】

3：どちらでもないに回答

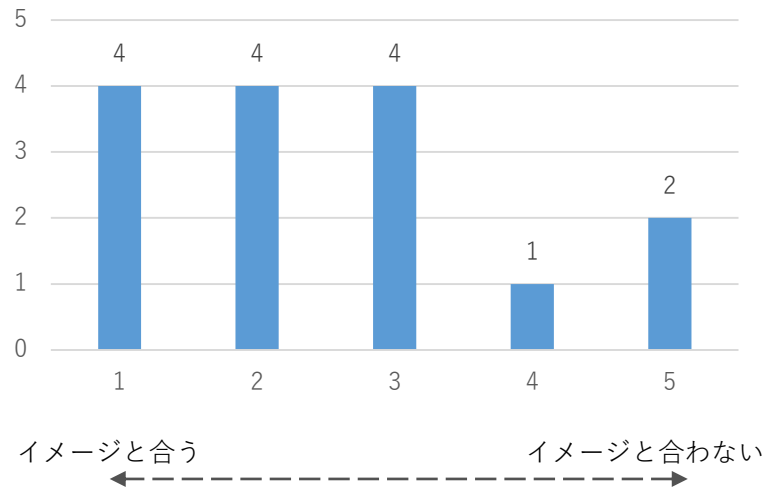
全力で牽引していきたいと考えております。

3：どちらでもないに回答

現時点で脱炭素に取り組んでいる企業＝企業の魅力の向上にダイレクトに繋がらない。顧客からすると企業の魅力は良いサービスや商品であり、脱炭素への取組みが商品の購入や契約に結び付くロジックがないと企業の活性化へのイメージが湧かない。一方で、義務教育の課程でSDG s が取り入れられるようになってからは、企業の採用面においては脱炭素に取り組んでいる企業とそうでない企業では差が出てくる可能性があると思う。

Q17-6 電気自動車の普及

市内を走る車は全てEV化されている。EV車の充電設備は市内に点在しており、いつでも充電できる環境になっている。



【自由記入欄】

1：イメージと合うに回答

技術面で大型車のEV化が促進できるかが重要であるように思う。上尾は運送用トラックの運行が多いことからそれが可能かが疑問。

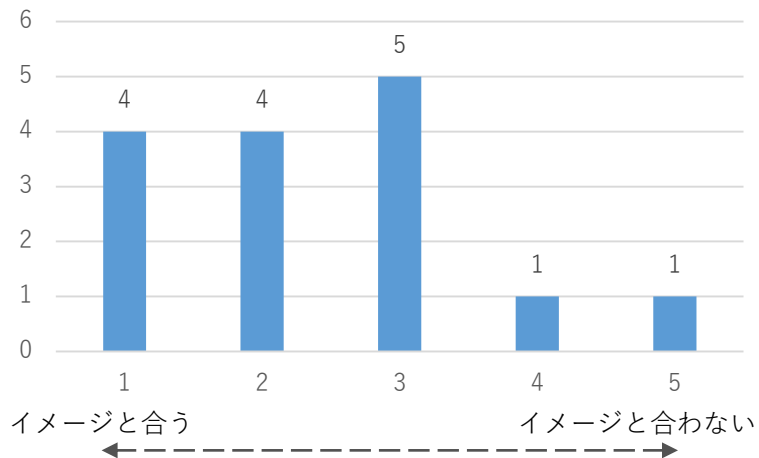
2：イメージに近いに回答

完全なEV化は極めて危険と考えます。

日本の場合充電施設の設置が困難な山岳地帯なども多くあり、また一部の機械設備は電気よりもその都度の化石燃料による稼働のほうが燃料効率が優れているものも多くありこちらを完全に転換することはリスクのある行為だと考えています。また、現状の火力発電主体の状態ではまったく意味のないことだとも考えます。

Q17-7 電気自動車の普及

公共施設やビル、商業施設などではZEB化が進み、新築住宅ではZEHが当たり前になっており、省エネと快適性が両立している。



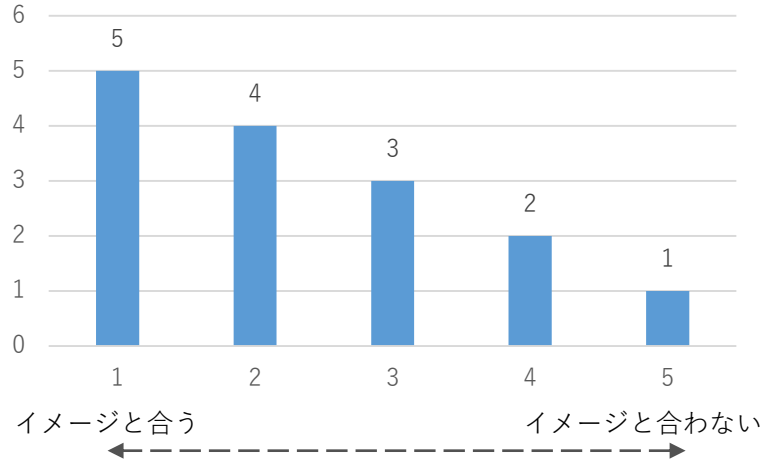
【自由記入欄】

3：どちらでもないに回答

ここにおいては考え実践していく企業とそうでない企業に二極化すると考えています。ゾンビ企業の方々には変わっていくことはできないと思いますし、変化を率先して起こせる企業体はさらに一歩先まで進んでいくと考えています。

Q17-8 自発的な脱炭素化の取組が普及

各部門（産業・家庭・運輸・業務・廃棄物）脱炭素化への取組の必要性を理解し、それぞれの状況や環境に合った取組を自ら選択して実行できている。



【自由記入欄】

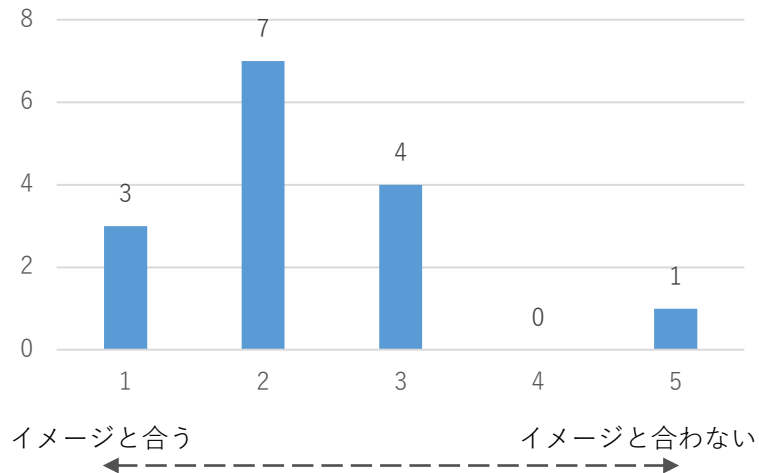
5：イメージと合わないに回答

脱炭素の必要性を消費者が強く受け止めていく必要があります。

現状では脱炭素という言葉のキャッチフレーズが極めて低く、これは上尾市だけでなく国家全体として変わっていく必要があると考えます。

Q17-9 再生可能エネルギーの普及

各家庭や市内事業所には太陽光発電システムや蓄電池が設置されており、自家消費されている。



【自由記入欄】

2：イメージに近いに回答

過分に発電された電力を運用できる仕組みまでできるとベターかと考える。

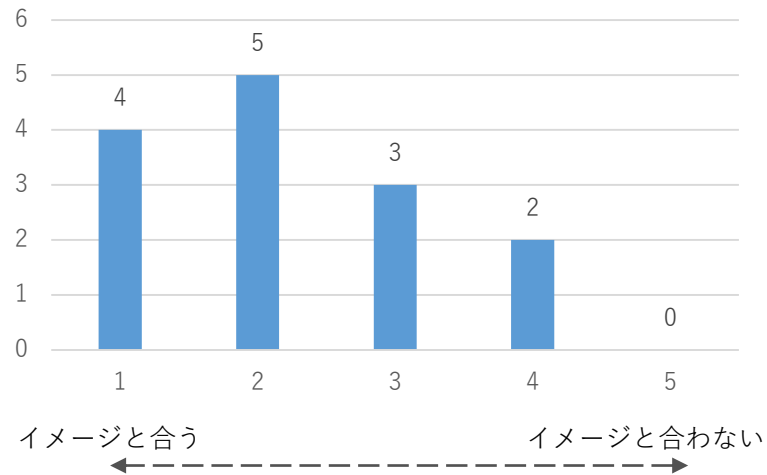
2：イメージに近いに回答

これは比較的实施しやすいものだと考えています。

ですが、ただ補助金を出して変えていくのではなく、市民・企業が自ずから推進していきたいと考えていけるような意識変化をしていく必要があります。

Q17-10 省エネ行動の定着

省エネルギーの取組が各家庭に定着し、消費エネルギーが減少している。



【自由記入欄】

3：どちらでもないに回答

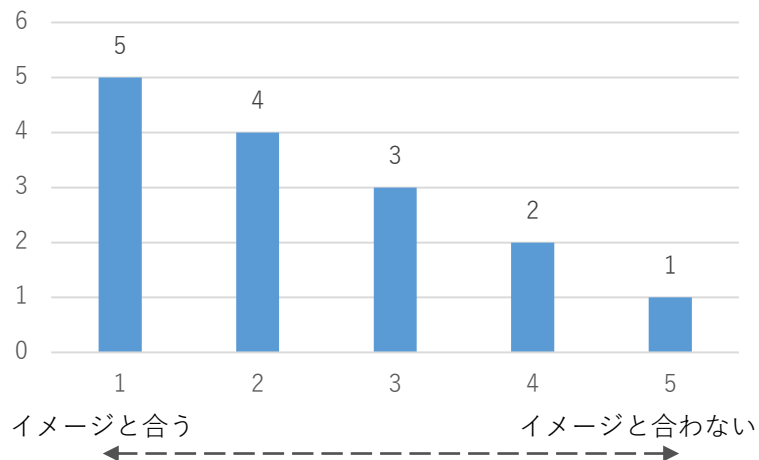
夏場のエアコン節約など生活に対して制限がかかる活動については、持続性に疑問があるため使用製品などの技術面や補助が重要と考える。

4：イメージと少し違うに回答

行政・民間がともに消費者意識を変えていく必要を強く感じています。

Q17-11 公共交通機関の充実・移動手段の多様化

市内バスなどの公共交通機関が需要に見合った運行状況が整っており、カーシェアリングの拡充や「MaaS」などの技術が導入され、多様なニーズに対応できる環境が整っている。



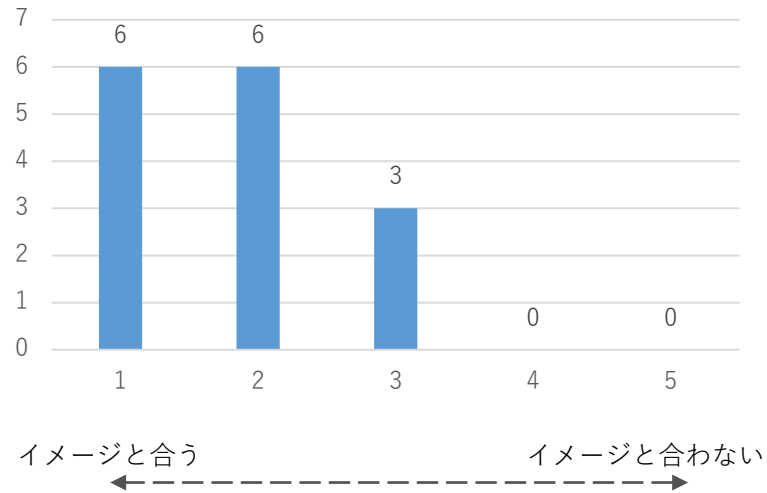
【自由記入欄】

2：イメージに近いに回答

電動キックボードなどのパーソナルモビリティの充実も必要。

Q17-12 循環型社会の定着

6Rについて十分に周知され、市内にリサイクルBOXが点在し、気軽に分別・リサイクルできる仕組みができています。



【自由記入欄】

1：イメージと合うに回答

リサイクルにかかるコストが抑えられるか次第

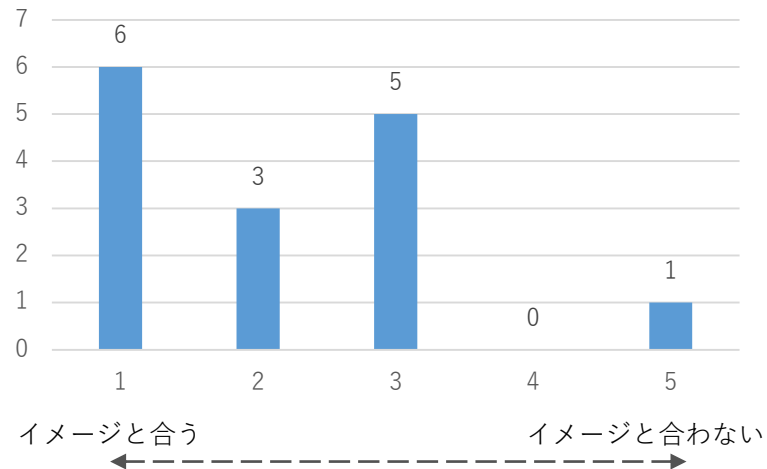
1：イメージと合うに回答

こちらにおいては、参画を強く希望する企業は多くあります。

会社としての利益を増やせるポイントともなっているため、行政にはその推進と市民の意識改革を期待します。

Q17-13 自然環境

市内の自然が維持されており、公園や緑地が整備され、自然環境についてより身近に感じられるようになっている。



【自由記入欄】

5：イメージと合わないに回答

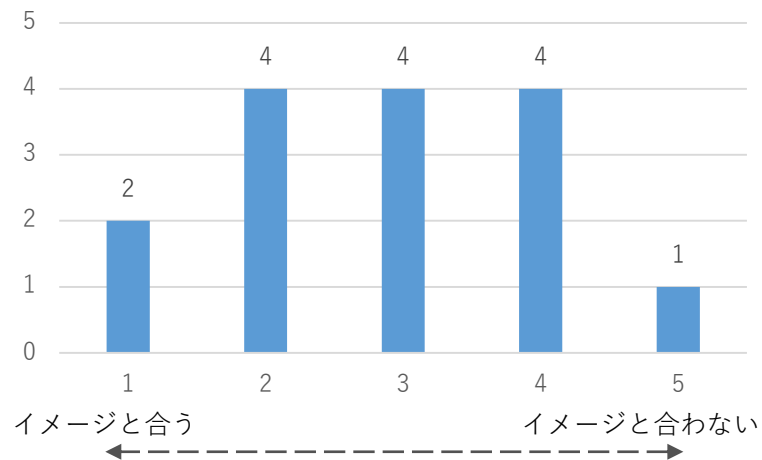
耕作放棄された(実質的に耕作のされていない)生産緑地などの規制強化を期待します。

農村と市街地の距離が極めて近い上尾市では新規に農業部門に進出を希望される若手も多くいます。

そのような方へ耕作放棄されている土地の有効利用をしていただき、地産地消のできる持続可能な街づくりを進めていっていただきたいです。

Q17-14 安定した気候

気候変動が抑制され、1年を通して今より過ごしやすい気候となっており、大雨等の自然災害が減少している。



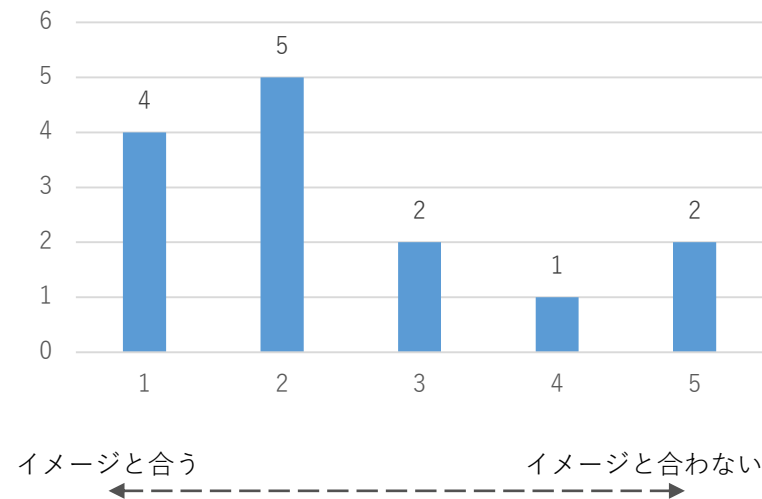
【自由記入欄】

4：イメージと少し違うに回答

こちらにおいては抑制よりも適応できる街づくりかと考えます。

Q17-15 エネルギーコスト（光熱費等）の低下・安定

AIやICT技術により光熱費が見える化できる環境が整っており、エネルギーコストが低下・安定している。



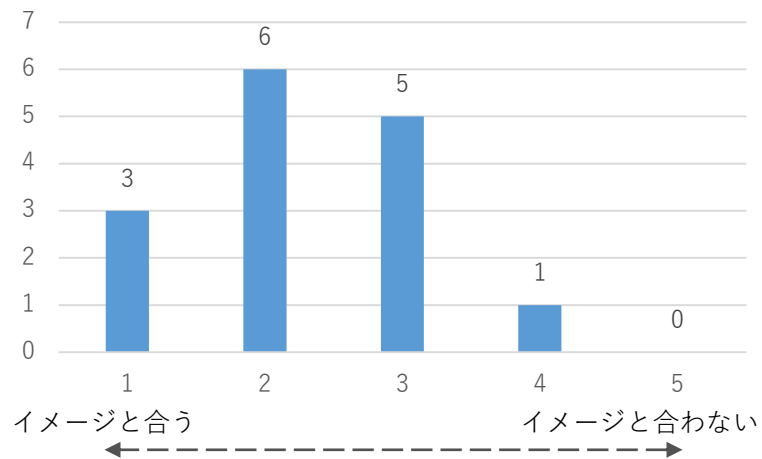
【自由記入欄】

1：イメージと合うに回答

AI/ICTにおいては牽引していく企業が多くあり、自然と変化していくため行政へ期待する取り組みとしては特にございませぬ。

Q17-16 他地域との連携

市内の再生可能エネルギーのみでは足りない電力は他地域から供給できるような仕組みが構築されている。



【自由記入欄】

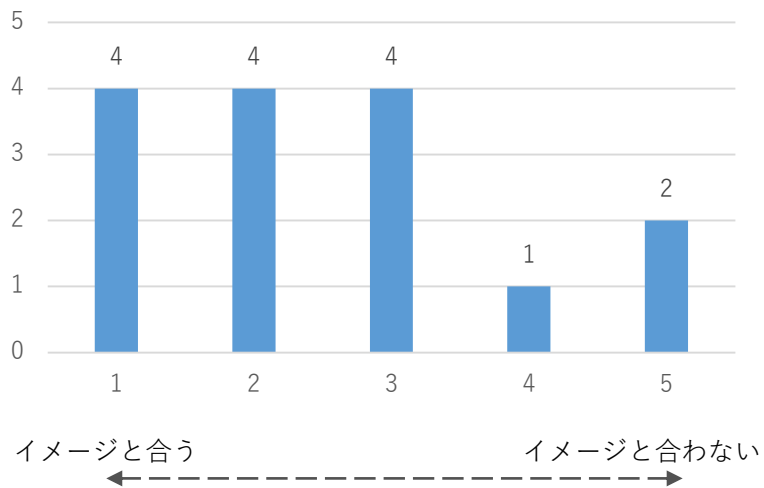
4：イメージと少し違うに回答

地理的構造的に困難かと考えます。

緊急時と考えると近隣の市町村から調達すると考えますが、埼玉県においてどこの市町村も同じような課題に直面しています。

Q17-17 スマートシティ

人々の暮らしを支える様々なものに対して、ICTやIoT、AI等の新しい技術を活用し、環境、エネルギー、交通、福祉など地域課題が解決されている。



【自由記入欄】

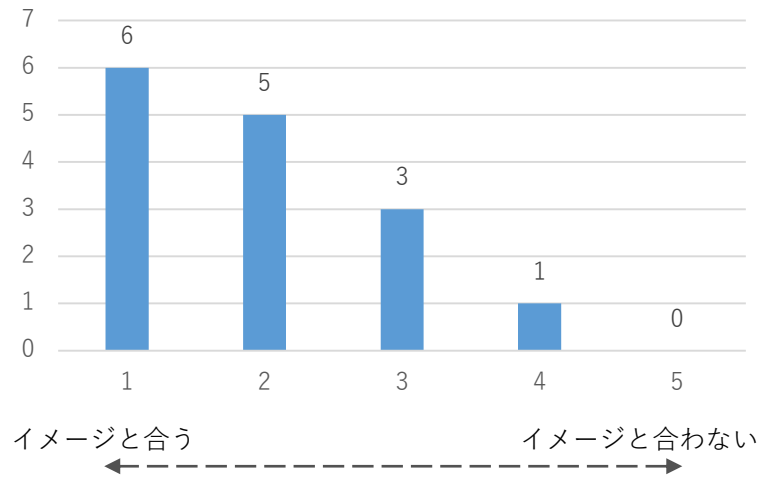
5：イメージと合わないに回答

さいたま市との共同実施を検討するべきかと考えます。

上尾市単体では予算・規模などの問題から達成が不可能なことも2市での構想となれば変わっていくのではと考えます。

Q17-18 イノベーション

様々な分野で革新的なイノベーションが進み、現在にはない新たな技術が普及し、脱炭素への変革が進んでいる。



【自由記入欄】

1：イメージと合うに回答

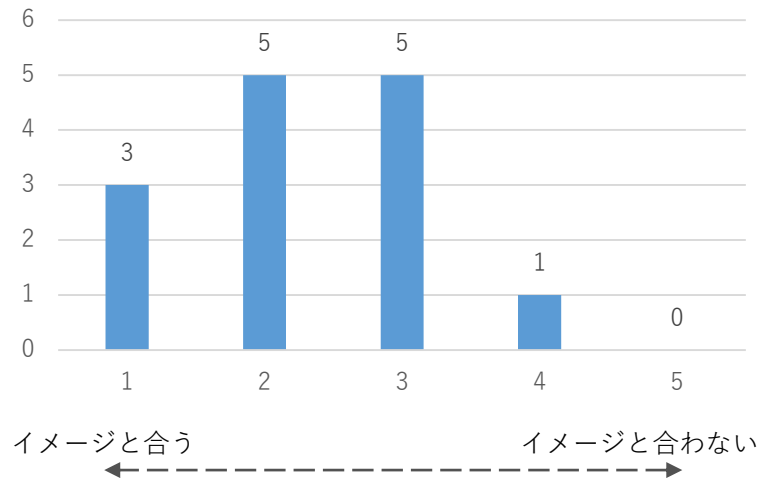
市内から脱炭素に向けての最先端技術を開発する企業が多く輩出されるとベター。また排熱の活用などエネルギー循環をもたらすことのできるイノベーションの定着化も重要

1：イメージと合うに回答

こちらは企業側での変革となるため、弊社としても自信をもって牽引させていただきます。

Q17-19 働き方の変化・移動の必要性の減少

オンラインなどの仕事のデジタル化を通じて場所や時間にとらわれない働き方が定着し、移動の必要性が少なくなっている。



【自由記入欄】

3：どちらでもないに回答

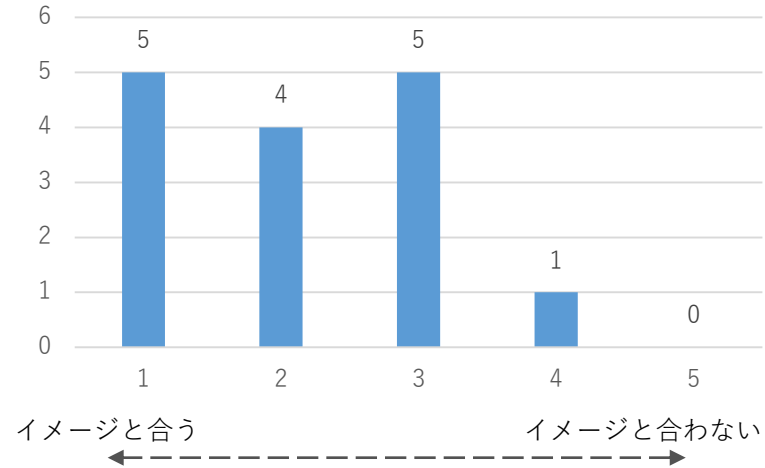
市内通勤者の増加も必要。

3：どちらでもないに回答

二極化していくポイントと考えています。

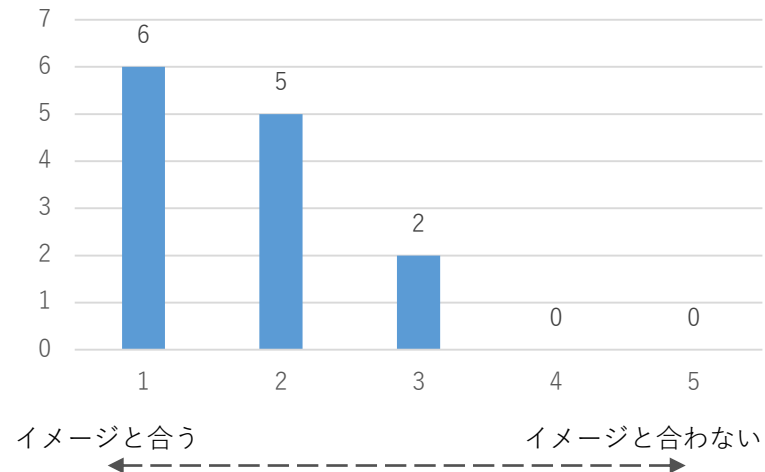
Q17-20 地産地消の推進

市内で生産された農産物は、市内で流通し消費されるようになっており、長距離運送によるCO₂排出量の抑制ができています。



Q17-21 食品ロスの削減

フードバンク・フードドライブ活動や必要な分のみ購入、「食べきり」「持ち帰り」など食品ロスを減らす取組が定着している。



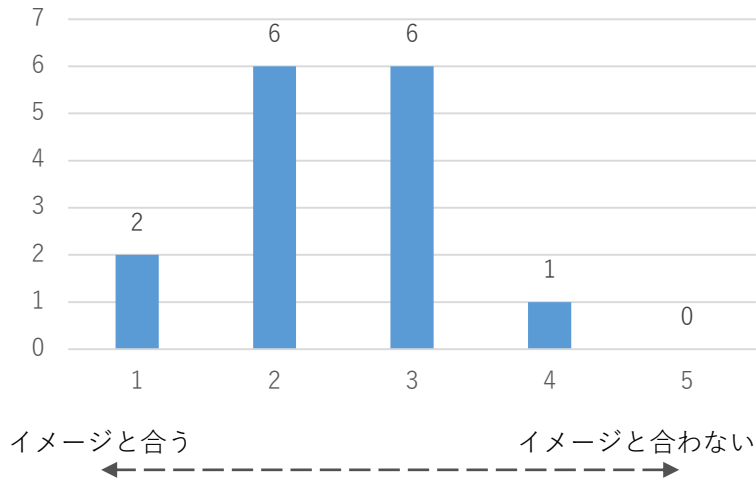
【自由記入欄】

2：イメージに近いに回答

上尾市では飲食店・配達式弁当など多くの飲食企業がございます。そういった企業とのフードロスの取り組みと児童が多い地域柄というところを合わせれば自ずから答えは出てくると考えます。

Q17-22 暮らしに木材を取り入れる・建築物の木質化

建築物の木質化が進み、CO₂を木の中に長く固定することができている。内装にも木材を利用することで快適な空間ができている。



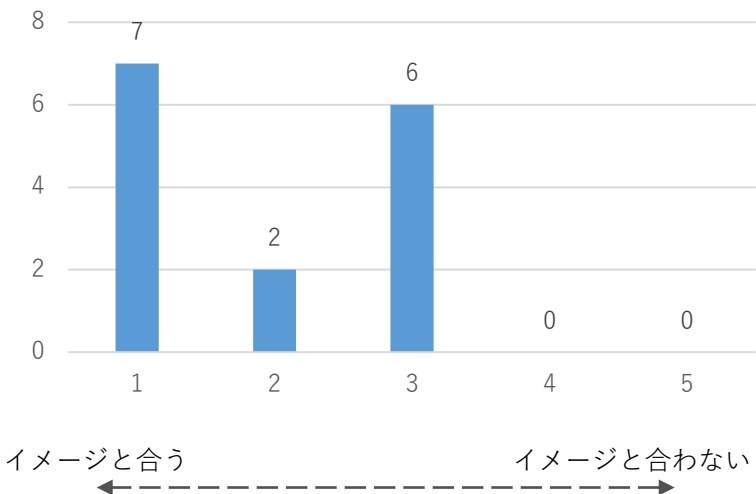
【自由記入欄】

3：どちらでもないに回答

建造物の木質化は災害リスクと並行して考える必要があるため3としました。
阪神淡路大震災のような火災による被害の増長を深く考え、推進していく必要があります。

Q17-23 シェアリング

レンタルサービスやカーシェアリング、シェアリングサイクルなどもの・サービス・場所などを多くの人と共有・交換できる仕組みが定着している。



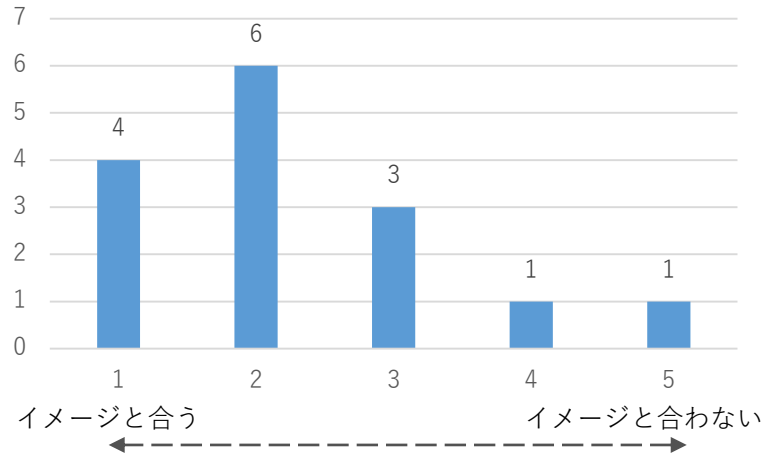
【自由記入欄】

1：イメージと合うに回答

こちらにおいても牽引されている企業様が多く自然と変化していくと考えます。

Q17-24 コンパクトシティ

都市機能の集約化による移動距離の低減、公共交通機関の利便性の向上による自動車からの温室効果ガス排出抑制、エネルギーの効率化が図られている。



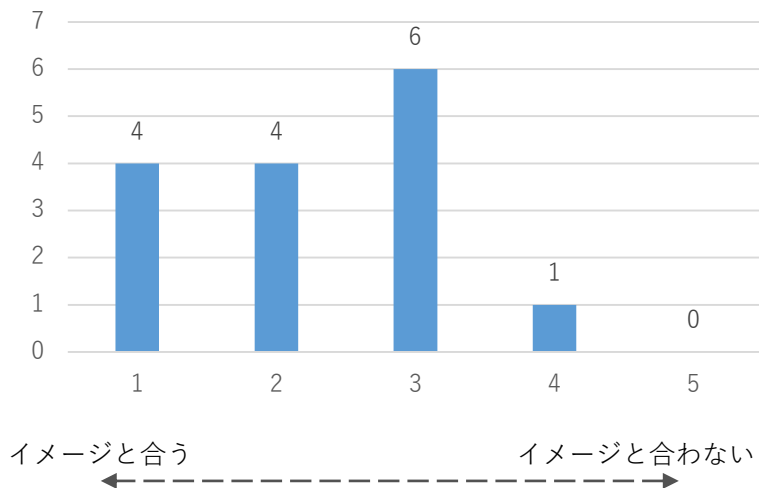
【自由記入欄】

2：イメージに近いに回答

この質問からだとイメージがしづらいですが、町の構造・道路インフラなどからは想像がつきます。

Q17-25 他地域との交流

森林や緑地が多い他地域との交流も増え、子どもが自然に触れる機会が増加している。



【自由記入欄】

1：イメージと合うに回答

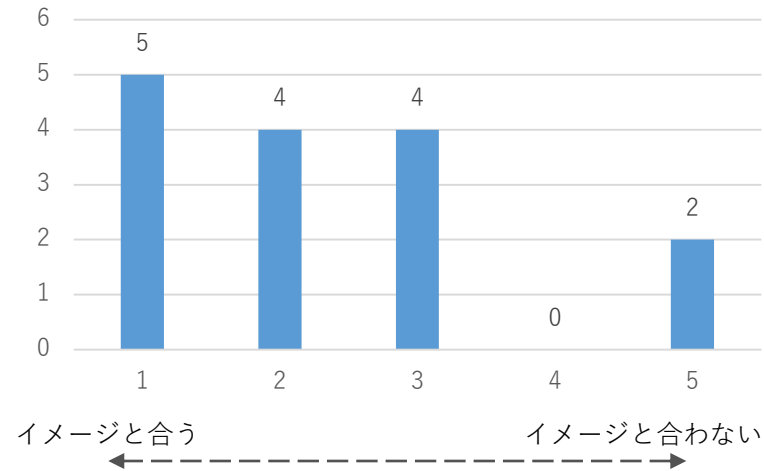
地理的立地としては極めて恵まれた環境に上尾市は置かれています。

上尾市ならではの教育カリキュラムに森林・緑地教育などを取り組まれてみてはいかがですか。

市としての魅力が増していき、転入者の増加・住みやすい街づくりにつながるのではないのでしょうか？

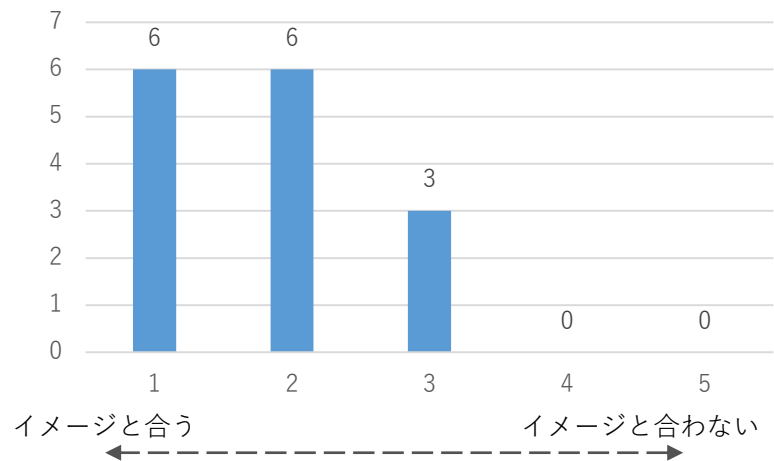
Q17-26 緑の保全

地域で親しまれている雑木林や貴重な樹木などが維持・管理されている。



Q17-27 ごみ減量

コンポストや生ごみ処理容器が各家庭に普及するなど、各々がごみ削減の取組を行い、自然に負担がかからない社会となっている。



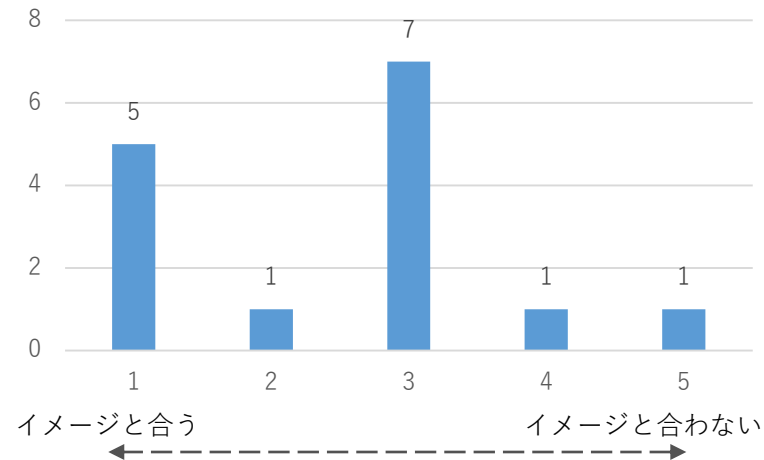
【自由記入欄】

2：イメージに近いに回答

コンポストの推進とその利用はベッドタウンである上尾市には急務と考えます。たい肥を利用したい地元企業もございますし、メタンガスでの発電も効率的です。弊社としても取り組んでいく予定ではありますが、より推進をお願いいたします。

Q17-28 生物の維持・保全

多様な生物の生息・生育の場が維持・保全されており、地域本来の生物を守り、育てる環境ができている。



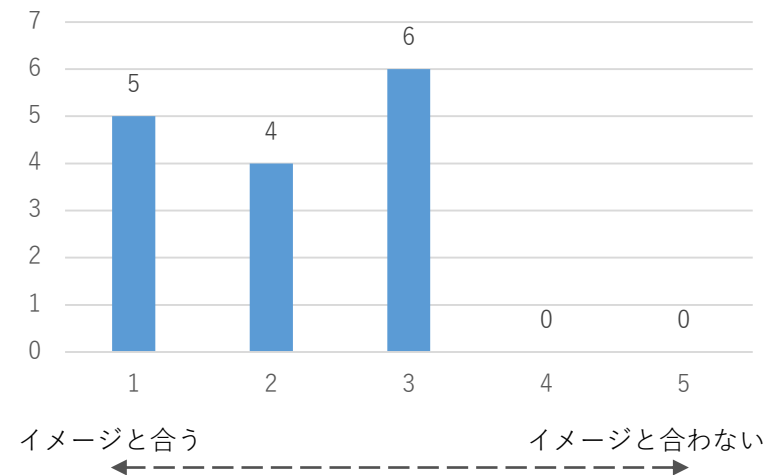
【自由記入欄】

1：イメージと合うに回答

地域の河川・池沼においても随分と生物が増えました。
減農薬や外来種の抑制などを十分に実施していけばさらに代わっていくと考えます。

Q17-29 空気がきれいな市

電気自動車等の普及により、排気ガスによる大気汚染が減少し、現在よりも空気がきれいになり快適な環境となっている。



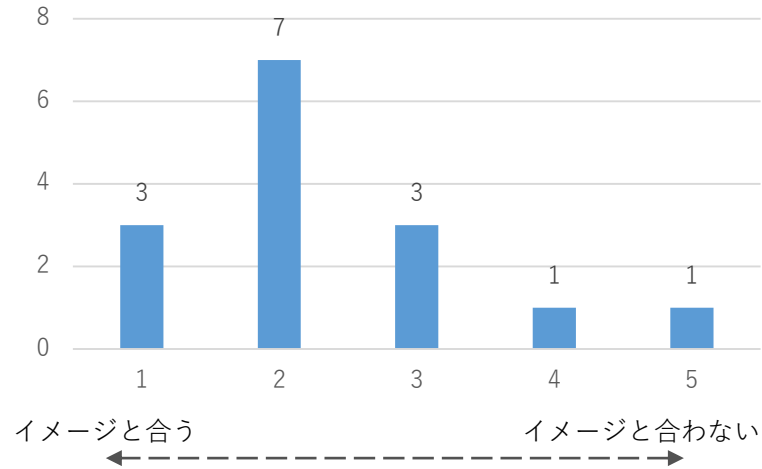
【自由記入欄】

2：イメージに近いに回答

上尾市にかかわらず国家全体として変わっていくものだと考えます。

Q17-30 個人のESG投資

地球温暖化への対策に取り組む企業の商品の購入や製品・サービスの利用、投資等を行う人が増え、環境に配慮する企業が増加している。



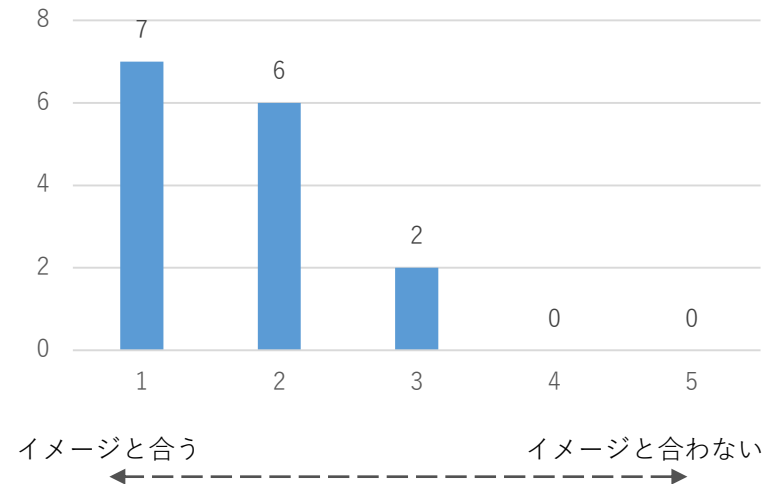
【自由記入欄】

5：イメージと合わないに回答

ここが一番行政に期待することです。市民の意識改革を完全に民間に投げ
て何もしないままですと他の市町村に大きく差をつけられてしまいます。
ちょっと上尾市産にはがっかりしています。

Q17-31 省エネ家電の普及

省エネ機器がより普及しており、機器の買い替え時には省エネ機器を選択している。



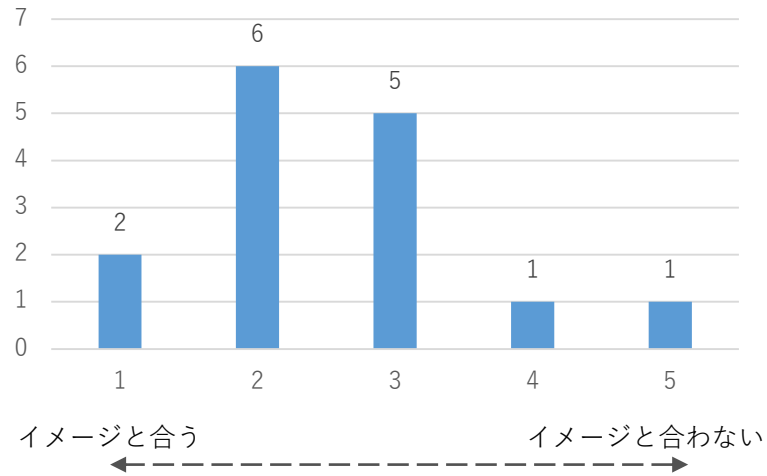
【自由記入欄】

1：イメージと合うに回答

こちらも企業側の努力で随分と変わっていています。

Q17-32 営農型太陽光発電の普及

営農型太陽光が普及することにより、遊休農地や荒廃農地が減少し、土地の有効活用ができています。



【自由記入欄】

5：イメージと合わない回答

上尾市の地価と売電価格から考えますと、ありえないと思います。

Q17-33 水辺環境の保全

河川等の水域保全が行われ、生物が生息しやすい水辺環境が整備されており、やすらぎのある景観や環境教育の場が保たれている。

